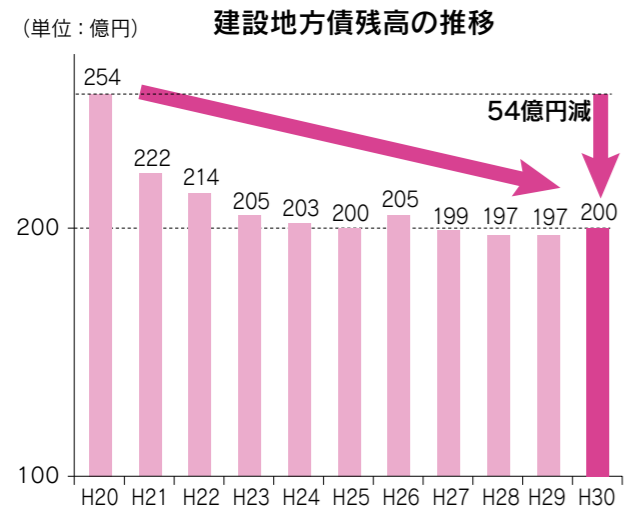


# 舞鶴市の財政状況

## 「まいづる家」のローンについて



まいづる家みんなが使う家の増改築（公共施設の建設、道路の整備ほか）などの費用を補うため、ローンを有効活用しています。平成30年度は、平成29・30年度の2か年にわたって発生した災害からの復旧によって、前年度よりも借入額（起債発行額）が増えました。

これまで残高は減る傾向にありましたが、今回のような災害や施設の老朽化対策で残高が増える可能性があります。

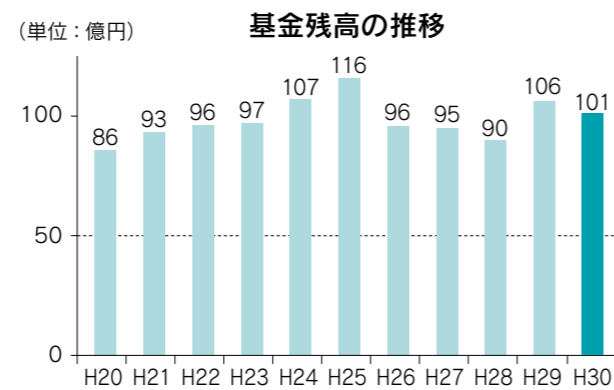
※「建設地方債」のほか、収入の不足を補う「臨時財政対策債」の借入も行っていますが、返済資金については、国の手当があることから、実質的な市の負担はありません。

将来世代の負担を減らすため、借入額よりも返済額を多くする取り組みを進めています。これによって、総合計画に定めるH30年度末建設地方債残高200億円は達成しました。

## 「まいづる家」の貯金について

まいづる家では、災害などの予期せぬ出費や将来の投資に備え、計画的に貯金を活用しています。

※平成29年度から閉鎖した土建会計の基金の残高を一般会計において表記しています。

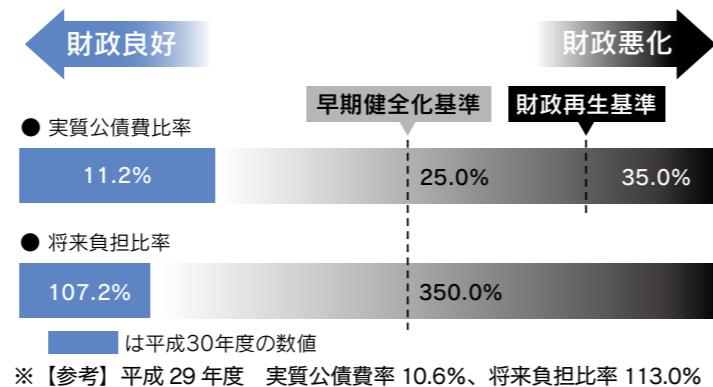


災害が発生しましたが、家計のやりくりを工夫することで、最小限の取り崩しに努めました。

## 「まいづる家」の家計の将来見通し ~財政の健全性を示す2つの指標~

### 健全化判断比率

家計に例えると「実質公債費比率」は、年収に占めるその年のローン返済の割合です。また「将来負担比率」は、ローンなどの将来返済が必要なお金が年収に対してどの程度あるかを表したものです。どちらの数値も、危険水準（早期健全化基準）を大きく下回っています。これからもこの数値を維持するためにはやりくりの工夫が必要です。



など、必要な経費は増える見込みです。このような状況を踏まえ、令和元年度も引き続き、歳入の身の丈を踏まえた予算編成を強く意識し、国や府の補助金を活用するなど財源確保に努めました。また、建設地方債の新規発行額を抑えることによる「将来世代の負担軽減」「基金取り崩し額の抑制」に取り組んでいます。



## 「まいづる家」の家計簿 ~平成30年度決算の状況~

舞鶴市の決算や財政状況を、家計簿に例えながら説明していきます。※平成30年度一般会計の歳入決算額約353億円と歳出決算額約351億円を、収入35万3千円と支出35万1千円に例えています。 ※1億円を「1千円」に、昨年度の決算額との比較は「先月との比較」としています。

収入 (市の財政にあてはめると)	金額	(先月との比較)	支出 (市の財政にあてはめると)	金額	(先月との比較)
父母の給料 (市税、地方交付税など)	216,000円	(500円↑)	食費 (人件費)	68,000円	(2,000円↓)
祖父母の年金収入 (国・府支出金)	82,000円	(±0円)	医療費 (扶助費)	77,000円	(4,000円↓)
家賃収入 (分担金、財産収入、使用料など)	11,000円	(1,000円↑)	光熱水費や日用品の購入 (物件費)	41,000円	(3,000円↓)
臨時収入 (寄付金、諸収入)	11,000円	(2,500円↓)	子どもの教育費や仕送りなど (補助費等、出資金貸付金、繰出金)	76,000円	(500円↑)
先月からの繰り越し (繰越金)	3,000円	(±0円)	家の増改築や修繕費 (建設事業費、維持補修費)	52,000円	(6,000円↑)
貯金の取り崩し (繰入金)	6,000円	(5,000円↓)	貯金 (積立金)	2,000円	(1,000円↑)
ローンによる借入れ (臨時財政対策債除く建設地方債)	24,000円	(4,000円↑)	ローンの返済 (公債費)	35,000円	(500円↑)
<b>計 (舞鶴市一般会計歳入合計)</b>	<b>353,000円</b>	<b>(2,000円↓)</b>	<b>計 (舞鶴市一般会計歳出合計)</b>	<b>351,000円</b>	<b>(1,000円↓)</b>

今月は、まいづる家のみんなが快適に暮らせるように、先月まで行っていた大規模な家の増改築がひと段落したところに、台風や大雨による災害で修繕が引き続き必要になったため、結果的にこれらの経費が先月よりも増えました。

災害のため必要となった修繕費は、医療費が減った分や、食費や光熱水費などを節約しつつ、それでも不足する分については、ローンを借り入れて対応しました。

「まいづる家」の家計状況は、先月に比べると、自分の給料に占める食費や医療費、光熱水費などの固定経費は減りました。ただ、今後は給料収入の大きな増加が見込めず、減少

傾向にある一方で、支出は医療費や子どもの仕送りが増える傾向にあります。さらに今回のような災害など急な支出に備えるためにも、収入の範囲で節約など家計のやりくりには工夫が必要です。



## 特別会計・企業会計 決算状況

特別会計とは、特定の事業を行う場合に、使用料などの収益でその事業の経費を賄うため、一般会計とは区別して収入・支出を処理するための会計です。

また、企業会計とは、民間企業と同様の経営基準で運営されている会計です。

※平成30年度から簡易水道事業会計は水道事業会計に統合し、下水道事業会計については、公営企業会計へ移行しています。

会計名	収入	支出	基金残高
国民健康保険	83億2,092万円	82億1,214万円	7億7,273万円
介護保険	80億7,050万円	79億7,478万円	6億8,921万円
後期高齢者医療	12億826万円	12億109万円	—
貯木	25万円	25万円	8,630万円
駐車場	5,950万円	4,041万円	7,804万円

会計名	収益	費用	当年度純利益 / 純損失
水道事業	19億336万円	16億5,726万円	2億4,610万円
下水道事業	37億8,860万円	37億6,751万円	2,109万円
病院事業	9億4,413万円	9億4,413万円	0円